

学校教育課だより

かけはし

「アクティブラーニングが目指すもの」

学校教育課長 鳥越 雅幸



秋の深まりを感じるようになり、十月は、秋らしい好天が続き、まさに実りの秋にふさわしい学習、運動、行事など、充実した教育活動が各学校において展開されたことと思います。

先日もその充実ぶりが伝わる富士岡幼稚園、神山小学校、富士岡小学校、富士岡中学校区の三年間にわたる幼小中連携・一貫教育研究の発表会がありました。義務教育の出口である中学校三年生の姿を共有し、幼・小・中の発達段階に応じた取り組みが、具体的に公開授業を通して、実として伝わったと思います。特

にシラバスの作成は、施設が離れている連携・一貫教育研究で、意識でつながる、意識の連携を図ることの大切さを改めて認識することができました。研究に携わった先生方、本当にお疲れ様でした。

さて、今年になって、各種教育新聞や教育雑誌に頻繁にアクティブラーニングという言葉が登場しました。教育用語に流行語大賞というものがあるとするれば、このアクティブラーニングが第一候補になるのではないかとと思われるほどの言葉を目にしました。アクティブラーニングとは、「初等中等教育における教育

学校教育課だより
「かけはし」
【第7号】
平成 27 年
11 月 16 日発行
御殿場市教育委員会



論点です。

第一は、「何が出来るようになるか」です。産業構造が数年で大きく変わる社会において、職業や社会で求められる資質や能力を意識して捉え直すことが求められています。

第二は「何を学ぶか」です。社会が持続的に発展していくために、育成すべき資質や能力を踏まえ、教科・科目等の新設や目標・内容を見直すことが求められています。

第三は、「どのように学ぶか」です。知識を活用して課題を発見・解決する力を育むことが求められています。

次期学習指導要領の改訂の方向性を確認しつつも、今、目の前にいる子どもたちが能動的に事象にかかわる授業を構想したいものです。

教師力向上講座 第三・四回「架け橋」

第三回は、

朝日小学校の桃井伴子先生が、「わたしと指導案」というテーマで講義を行いました。この講義



は、若手教員が研究授業などで指導案を作成する際、ポイントが分からず、迷いながら作成しているなどという実態を基に計画しました。また、実施時期については、夏季休業中に腰を据えて細案を作成することを考え、七月に実施しました。

桃井先生は講義の中で、「教材観」「子どもの実態把握」「単元構想」などという指導案を作成するうえで欠かせない要素を、豊富な経験に基づいてお話しくださいました。また、「主発問の吟味」「子どもの答えを予想する」「ユニバーサルデザインを意識した細かな支援計画」「ねらいと評価の整合性」「主語のねじれ」「板書計画」「手立てとねらいの関係」なども触れていただきました。

様々な教科の指導案を見ることができ、どの指導案も子どもたちについて細かく書かれていて、子どもの実態を基に作られた授業であることが分かりました。道徳の授業では、終わり方をいつも悩んでいたの、「ちよつとよい自分を見つめる」を参考にしたと思います。(中学校教員)
・授業をやることは幸せなこと

とで楽しいことなのだと思改めて感じました。子どもの分析教材の分析、指導案の作成など、教師自身が楽しまいと思えない授業はできないと思えました。全員参加、困っている子どもにもスポットライトを当てて、できる子どもも満足するなどをイメージして授業を作っていくことが大切だと思えました。(小学校教諭)

第4回は、御殿場小学校の芹澤由紀子先生が、「道徳の教材吟味及び主発問の作り方」というテーマで講義を行いました。子どもを取り巻く環境が日々変化し、また、いじめ問題などの教育問題もクローズアップされる中、道徳教育の重要性が叫ばれています。この講義は、御殿場市・小山町授業研修会のP D C Aにも連動するように、十月に実施しました。



芹澤先生は講義の中で、中央の情報を若手教員にかみ砕いて教えていただきました。同時に、「確かな子ども理解」

「教師の感性を日頃から磨く」「日常生活から教材を探す姿勢」「教材の吟味と主発問の重要性」などをはじめ、道徳の授業を構成する上で大切な要素を、豊富な経験を基にお話しくださいました。また、授業改善の方向性も明快にお話しくださいました。

・発問の仕方をいつも迷っています。今まで「時系列的な吟味」ばかりで「構造的な吟味」や「子どもの視点に立つ吟味」を怠っていました。また、低学年ということもあり「場面発問」ばかり考え、「テーマ発問」を行ってきませんでした。この講義や演習を受けて、新たな視点を持って教材研究に励みたいと思えました。(小学校教諭)

・中心発問をテーマ発問にするのか、場面発問にするのかで、グループ内で話し合いが進みにくくなってしまう。これが道徳の難しさ、そして深さだと感じました。答えが簡単に出るものではないからこそ、教師側がその内容で何を子どもたちに気付かせたいのか、授業構想をしつかりと立てなければと思えました。どの発問のタイプにするかで、

道徳の授業が変わることを学びました。(中学校教諭)

若手教員の育成は、御殿場市の教育発展のために重要です。参加者が自校に戻り、講座で学んだことを教育活動に生かしてくれることを期待しています。【石田善止】

特別支援教育の推進

学校教育課のグランドデザイン重点目標の一つに「豊かな感性」があるが、その目標を達成するための取組の一つに「特別支援教育の推進」があります。通常の学級においても、特別な教育的支援が必要な子どもは増えてきていますし、特別支援学級に入級する子どもも増えてきている状況です。

今年度は、巡回指導員として瀬戸祐子先生に小中学校を訪問していただき、通常の学級における特別な教育的支援が必要な児童生徒の様子を見ていただいております。昨年度までは、各学校三回の計画で訪問日を決めていましたが、今年度からは、学校のニーズに応じて訪問できるように訪問の形を変更しました。最初は、学校からの要請がたくさ

んあるのだろうか？と不安に思うこともありましたが。しかし、いざ学校生活が進んでいくと、学校からは、瀬戸先生への要請が多く寄せられました。現在、巡回指導を必要としている学校に少しでも多く訪問して、困り感のある児童生徒への支援方法について、その場で具体的にアドバイスをするなどして、各校で充実した支援が行われています。

後期に入り、今年度初めて特別支援学級を担任されている先生方への支援、指導にも携わっていただけるよう、瀬戸先生には、特別支援学級にも入っていただいております。また、玉穂小学校、東小学校、原里中学校の三校には、御殿場特別支援学校の先生方に後期間、二〜三回の予定で特別支援学級に入っていただき、学級経営や学習指導などについての具体的な支援、指導をしていただきます。これらの取組が特別支援学級を担任している先生方の力量を高め、さらには、特別支援学級で生活し、学習している児童生徒の成長につながると確信したいと思っております。【長澤広志】

今年度は、巡回指導員として瀬戸祐子先生に小中学校を訪問していただき、通常の学級における特別な教育的支援が必要な児童生徒の様子を見ていただいております。昨年度までは、各学校三回の計画で訪問日を決めていましたが、今年度からは、学校のニーズに応じて訪問できるように訪問の形を変更しました。最初は、学校からの要請がたくさ

新教育委員長 就任のあいさつ
勝又 英和 様

教育委員長を拝命し思うことは、子どもたちの学力向上はもとより、学習環境の充実、教育格差の是正、先生方の教育指導力の向上や過酷な労働時間、職務の繁雑さなど、課題も多い様に感じられます。また、教育には「家庭教育」や「学校教育」、「社会教育」等がありますが、子どもたちの豊かな人間形成を育む上で、家庭と学校は密接なつながりを持ちながらも、明確な役割区分の必要性も感じています。

教育とは、その人の持つ能力を引き出すこと、伸ばすことを意味するのですが、その教育には「受ける側」と「教える側、行う側」とに分かれます。教育委員長として、委員会のスムーズな進行と、両者にとってよりよい教育環境の整備に努めていきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

